

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 水戸市立博物館協議会
- 2 開催日時 令和8年2月20日（金） 午前10時から11時30分まで
- 3 開催場所 水戸市立中央図書館 3階 視聴覚室
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委員 笹目 礼子、桑名 実、河原 将子、中庭 忠、村山 朝子、安嶋 隆、小坪 のり子、玉川 里子、塚原 正彦、藤 和博、藤本 陽子、黒木 勇
 - (2) 執行機関 小川 邦明、杉岡 有里乃、鈴木 雅人、藤尾 隆志、小野瀬 永子、中村 有紀子、柿澤 晟也
 - (3) その他
- 5 議題及び公開・非公開の別
 - (1) 報告事項
 - ① 企画展 戦後80年事業「いま、戦争を語るということ ―水戸市立博物館所蔵品と河川龍夫《関係-植物・HIROSHIMAのタンポポ》を通して―」の結果について（公開）
 - ② 特別展「洋服と和服の100年」の結果について（公開）
 - ③ 令和7年度博物館事業の実施状況について（公開）
 - (2) 協議事項 公開
 - ① 特別展「子どもミュージアム 夜のいきもの展」の開催について（公開）
 - ② 令和8年度博物館の主な事業計画（案）について（公開）
 - (3) その他 公開
- 6 非公開の理由 無し
- 7 傍聴人の数（公開した場合に限る。） 0人
- 8 会議資料の名称 令和7年度第2回水戸市立博物館協議会
- 9 発言の内容
(開会のあいさつ)
【副委員長】
今回は委員長が欠席のため、博物館条例の定めにより、議長を務めます。
それでは、早速議事に入りたいと思います。報告事項の(1)から(3)について、事務局から説明をお願いします。

【執行機関】（資料説明）

【副委員長】

以上の報告事項のうち、(1)の企画展について何か意見・質問ございますか。

【___委員】

現代美術と戦争関係資料のコラボという面で、斬新で面白かったと思いますが、河口氏の作品と戦災資料の対比がわかりにくく、水戸の空襲も知らない人がたくさんいるなかで、水戸市立博物館にこういった戦災資料があるという意味がわかりにくかったと感じました。また、夏休みだったので子どもや若者にもっと見てほしかったです。展示以外に、子どもたちに発信する関連行事だったり、展示室で展示物にふれあう関連行事があれば良かったのではないかとというのが感想です。

【___委員】

7月26日に開催された関連行事「戦災と向き合う」に参加させてもらい、展示も拝見しました。河口さんは1940年（昭和15年）生まれで、終戦時は5歳であまり記憶が無い方になります。おそらく戦後90年には戦争を知らない世代で語る必要があり、博物館の展示で戦災の資料をどう感じてもらうかが大切になります。空襲などをどう伝えるか。今回は直接的な戦争資料と現代美術の作品を同時に展示することで、戦争をどう想起させるかを考えさせられたいいきっかけになったと思うので、またやってほしいです。市内と言わず、県内の学校や放送部とのコラボレーションも一つの方法でしょう。

【副委員長】

美術作品の展示ではあまり説明を多くしませんが、かといって背景を伝える必要もあります。難しいですが、斬新的な取組だったと思います。

【___委員】

河口先生の作品にしては、比較的わかりやすいテーマで、ひまわりという明るいイメージをもちつつ戦争を考えさせるという制作側の姿勢が明確に出ていました。しかし、それを来館者が作品を見て短時間で想像をめぐらせるのは大変で、難しい展示に挑戦されたと思います。ただ、挑戦すれば良いものではなく、来館者特に夏休みに子どもが来館して、戦争を改めて考えるステップになりえたかと言えば疑問もあります。反省して次にいかすのも難しいテーマで、担当者の蓄積があつてこそ成り立つ展示でした。大人であつても理解するのが難しい展示だったと思います。

【___委員】

アンケートの中で、台湾からお越しになった方から「中国語でも記載してほしい」と意見をいただいておりますが、外国人の来場者への配慮が必要で、予算の配置を考えるべきだと思います。

【執行機関】

文化庁でも、博物館の規模の大小関係なく全国一律で多言語化を求めています。当館としても、

やれるところからやっけていこうとしています。多言語化まではできていませんが、今後の課題だとは認識しています。

【___委員】

私も市内や県内の小中学生にもっとアピールすべきだったと思います。次年度は学校を通してアピールする側であると感じています。子どもを引きつける資料を一つ二つ出してもらえたらと思います。SNSでの発信やブログもそうですが、グッズとしてシールなどを作れば良いと思います。

【___委員】

高校生の来場者数が少ないのも気になります。せっかく夏休みに展示をしていて、高校生が朗読した行事があるのに、それに合わせてお友達なども来場してもらえたらと思いました。資料を高校に貸す際に、常設展示でも戦争を紹介していることをアピールして、高校生に来てもらう必要があります。

【副委員長】

(2)の特別展については何かありますでしょうか。

【___委員】

たまたま所用で来館して見学することができました。想像以上に素晴らしい内容でした。ギャラリートークでも担当学芸員の小野瀬さんが着物姿で解説されていて雰囲気が素晴らしかったです。

気になったのが、会期が短いところです。特別展や企画展はもう少し長くできないでしょうか。ほかの博物館と比べても短いと思います。だいたい32日間程度でしょうか。

【執行機関】

企画展・特別展ともに、おおよそ一ヶ月です。常設展とすみわけを行ないながら日程を調整しています。

【___委員】

期日が一律でそうと決まっているわけではありませんが、予算を確保する段階で、計画してほしいと思います。

【副委員長】

そのあたりは展示や時期ごとにその都度色々工夫していただければと思います。今回の特別展は、教育史の中で制服の変遷がよくわかる展示だと感じました。

【___委員】

来場者の男女の比率はわかりますか。

【執行機関】

圧倒的に女性が多かったです。特に中高年以上の方が興味を持ってくださり、ドレスメイキングの雑誌などを懐かしそうに御覧になっていました。

【___委員】

もっと多くの人にみてほしかったです。NHKでもとりあげていなかった。PR活動などは行いましたか。

【執行機関】

報道各社に投げ込みでの情報提供を行いました。残念ながらメディアはとりあげませんでした。

【___委員】

今はあるかどうかわかりませんが、茨城放送で10分ほど県の活動をPRする番組がありました。そういったところを活用すれば良いと思います。

【___委員】

投げ込みだけで無く、担当学芸員がもっと推しの資料をPRすれば良いのではないのでしょうか。

【___委員】

博物館のHPに、特別展の情報をもっと載せてほしいです。

【___委員】

SNSは活用していますか。動画も大切だと思います。

【___委員】

博物館独自にXで情報発信をしています。また、市のSNSや公式LINEでも情報発信を行っています。

【___委員】

博物館の情報を市HPのトップ画面でバナーのように掲載すればわかりやすいと思います。

【___委員】

茨城県には3つの日本遺産ストーリーがあります。うち1つは水戸の「学ぶ心」というストーリーですが、今回の展示は水戸の女子教育の大きな枠組みとして、日本遺産のプロジェクトとして組み立てるべきだったのではないかと思います。また、日本遺産ではストーリーを紹介する核となる拠点施設の設置が求められます。水戸市立博物館がその発展的な役割を担う必要があると感じます。モデル事業として、文化庁からも補助が受けられると思います。

【副委員長】

確かにPRには色々な切り口があると感じます。

【___委員】

PRするための予算を計上すべきだと思います。また、博物館だけでなく市のHPのトップに企画展などの博物館情報を掲載することは予算がなくてもできると思います。来年度の予算枠は決まっていると思いますが、できることから検討してほしいと思います。

【執行機関】

市の広報全体はみとの魅力発信課がとりまとめているので、魅力発信課へも提案してまいります。

【副委員長】

(3)の実施状況について、何かありますか。

【___委員】

学校への資料の貸出について、貸出時期は夏が多いのですか。そうであれば、夏の事業に来ていただくよう宣伝がしやすいと思います。

【執行機関】

修学旅行の事前学習などで、時期はまちまちといったところです。

【___委員】

高校生にも来てもらう手立てを考える必要があると思います。

【___委員】

牛久市では、来年度の4月から、高校で「探究の時間」を用いて10時間ぐらい日本遺産を知ってもらうとともに、高校生に日本遺産のプレゼンテーションを考えるという取組を始めます。博物館でも、水戸の歴史や日本遺産にかかわるテーマで高校で模擬授業をできればと思います。

【副委員長】

講座において、歴史系の講座が複数行われておりますが、学校で講座を行う機会を増やすことができれば良いですね。

次の議題に進みたいと思います。

協議事項について、(1)はこののち、実際に展示をみながら担当学芸員から説明をいただくとして、(2)について事務局より説明をお願いします。

【執行機関】 (資料説明)

【委員長】

ただいまの説明について、何か質問や意見などありますでしょうか。

【___委員】

夜のいきもの展は多くの来場者が期待できそうですね。来年度のおもちゃに関する企画展も期待しています。

【___委員】

夜のいきものに注目した自然部門の展示は、これまで茨城県内ではあまりなかったと思います。私は東海村の「歴史と未来の交流館」で働いていますが、学芸員のイメージが村民には縁遠いというのが話題になりました。月一で良いので、名前を入れて、どんなことをしているのか発信するのが良いと思います。コラムとか、自然だと観察記録なども良いでしょうか。市民と博物館の距離を近づける必要があります。

【___委員】

子どもミュージアムでありながら、春休み前に終わるのが残念です。

【副委員長】

ほかに何か御意見はありませんか。

それでは、これで会議を終わりたいと思います。

【執行機関】

皆様、ありがとうございました。それでは、以上を持ちまして、令和7年度第2回水戸市立博物館協議会を閉会といたします。